

We Guard All

トップメッセージ | 高谷 康久

ネットセキュリティにおける
トップブランドへ

株主・投資家の皆様へ

E-G通信 2023年度 上期
2022年10月1日～2023年3月31日

進化するインターネット環境において、 確固たるセキュリティブランド確立に 向けて取り組んでまいります。

昨今、世界中が対話型AIに関する話題でもちきりになっています。当社もAIを活用した投稿監視や画像監視を開発・活用していますし、チャットボットへのさらなる活用も可能となりそうです。ただ、対話型AIがどれだけ発達しようと、インターネットのセキュリティの重要性は変わらないばかりか、一層重要になっていくことは間違いありません。当社の存在理由でもある「We Guard All」の真価をますます発揮すべき時が到来しつつあると受け止め、さらに前進してまいりますので、株主の皆さまの一層のご支援をお願いいたします。

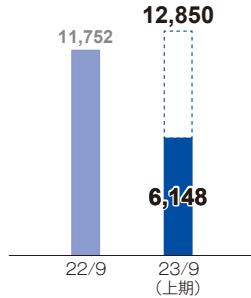


代表取締役社長
高谷 康久

業績ハイライト

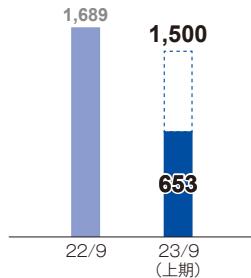
売上高

6,148百万円



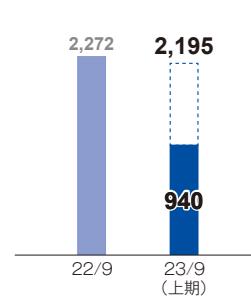
親会社株主に帰属する
当期純利益

653百万円



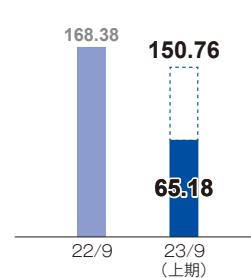
営業利益

940百万円



1株当たり当期純利益

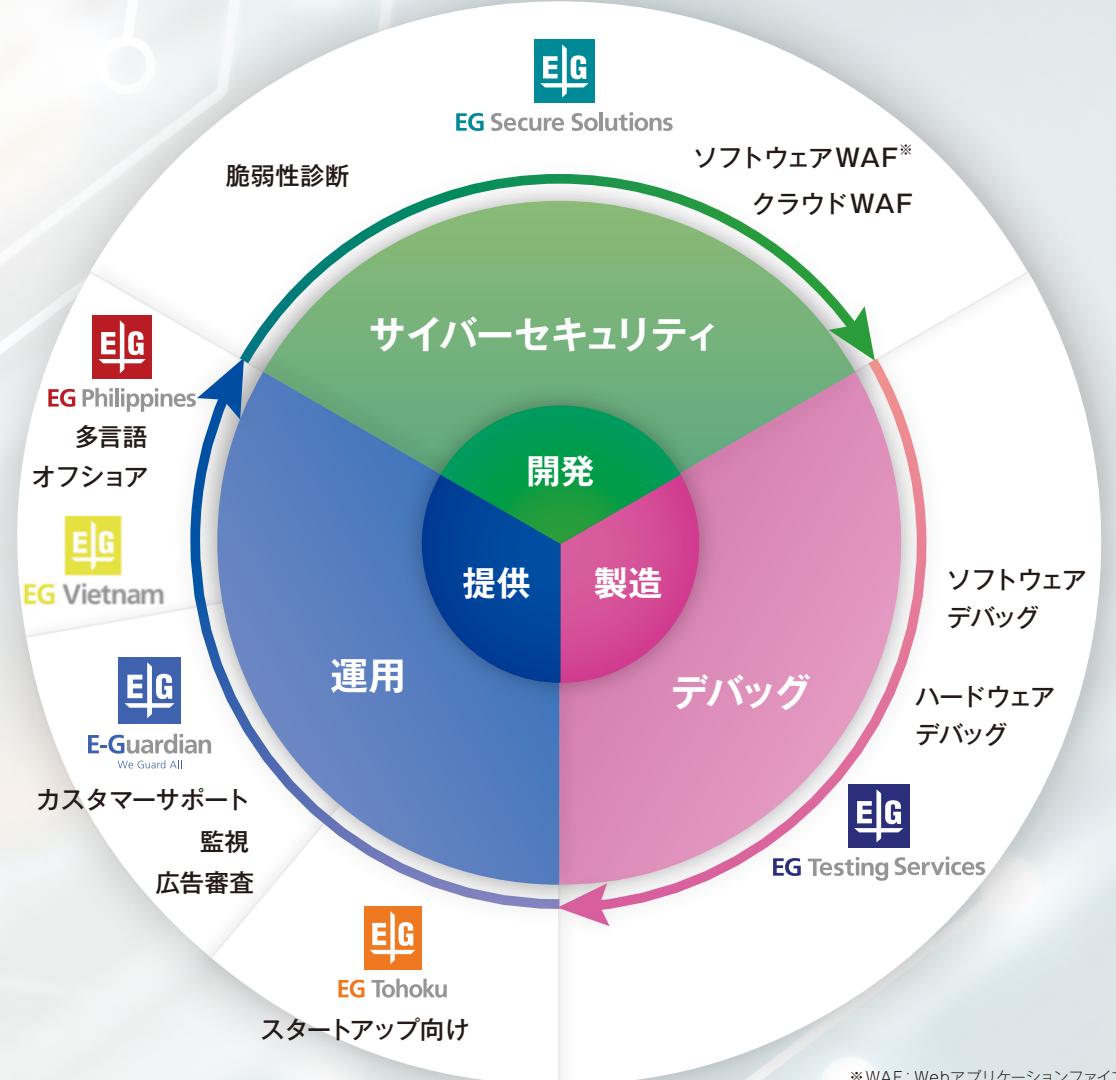
65.18円



Point サイバーセキュリティ事業が躍進

ECサイトのカスタマーサポートはもとより、Fintech関連で必要となる本人確認の支援サービス、広告審査業務も伸長し、売上高が伸長いたしました。さらに、3月決算の企業顧客を中心に、サイバーセキュリティ事業における脆弱性診断サービスの既存・新規の需要の取り込みに注力し、これが功を奏したことも増収に貢献いたしました。

インターネットサービスを上流から下流まで支える セキュリティのワンストップサービス



*WAF: Webアプリケーションファイアウォール

日本を代表するセキュリティブランドを目指します。

2023年(9月期)上期の業績について どのように評価されていますか。

売上が61.4億円で前年比7.1% (4.0億円)の増収、営業利益は9.4億円で前年比20.5% (2.4億円)の減益となりました。ゲームサポートこそヒットタイトルが少なく伸びなかったものの、Fintechや本人確認等のソーシャルサポート、広告審査等のアドプロセス、サイバーセキュリティの分野は順調に伸びました。

減益は、センター新設による費用の増加と一部大型案件の低収益化の影響です。ただ、この大型案件は交渉努力の末、収益改善が進んでおりますし、センター新設は成長のための投資なので、下期からの巻き返しを期しています。

新設の博多センターについて教えてください。

イー・ガーディアン単体では9番目のセンター、子会社を含むイー・ガーディアングループでは19番目の拠点になります。九州には熊本と宮崎にもセンターがありますが、何と言っても博多は九州のITの中心地で、進出しているIT企業も他の地域と桁違いです。このため、博多に立地するクライアントからも「博多に来てほしい」「近いところでサポートしてほしい」という依頼が寄せられていましたし、IT企業からの転職希望者も

多いため、即戦力人材の採用にも有利です。一般に新規地域への進出はリスクが伴うものですが、博多センターの開設はローリスク・ハイリターンを選択だと考えています。



テレビCMを放映されましたが、 その狙いと効果はいかがでしたか。

1月21日～29日にかけて首都圏のテレビ朝日系列局で、テレビCMを放映しました。一般にB to BのIT企業は社会的知名度が低いという現状があります。また、例えばコンピューターサイエンスに詳しい大学新卒者は必要とされるよりもはるかに少ないため、IT企業による争奪戦となっています。当社は、これまでは私大文系の新卒採用が多かったのですが、これからはピンポイントで優秀なIT人材を確保する必要があります。

す。これまでは労働集約型の監視に重点を置いてきましたが、これからはサイバーセキュリティ分野がそうであるように、特定分野に精通した人材の確保が企業成長の要になるため、イー・ガーディアンの認知度を高めるブランディングに着手した次第です。効果としては、当社ウェブサイトへのアクセス数が約2割増え、応募者数が増えて採用人数の増加につながりました。また、新卒者の保護者が当社を認知したことで、当社への就職を支持してくれる等の効果もあらわれてきています。

炎上やデータ漏洩、予期せぬ攻撃まで、
サイバー空間の脅威には、立ち向かう力が必要だ。

私たちはビジネスを止めないために、
セキュアな状態を見守り続けるパートナー。

おそれるな。いつでも、守る。

E-Guardian
We Guard All

備える、サイバーセキュリティ。

子会社EGセキュアソリューションズをめぐって大きな動きがありました。

まず私が4月にEGセキュアソリューションズの社長に就任（イー・ガーディアン社長と兼任）し、また日本のサイバーセキュリティの第一人者であり同社の取締役CTO（最高技術責任者）である徳丸浩が、イー・ガーディアンのCISO（最高情報セキュリティ責任者）を兼任する人事をおこないました。その目的は、立ち遅れている日本のサイバーセキュリティの強化に貢献するとともに、その過程で日本を代表するセキュリティブランドを目指すためです。

日本における法人向けセキュリティ市場規模予測



出典：NRI「野村総合研究所、2027年度までのICTメディア市場の規模とトレンドを展望」より当社作成

サイバーセキュリティは、今後、ますます重要性が高まり市場が拡大していく分野ですが、日本の立ち遅れは著しいものがあります。世界でハッカーが暗躍して大きな被害をもたらしていますし、サイバー空間は国対国の攻防の場ともなっています。いわゆるサイバー軍の規模では中国が17万人程度、北朝鮮が7,000人程度と言われるのに対して、日本の自衛隊では昨年強化されてもわずか890人。これは一例にすぎませんが、日本はサイバーセキュリティの人材が圧倒的に不足しています。

このような状況の中で、日本の企業でも自社のコンピューターやネットを常時監視し問題に対処するCSIRT*を当社のように形成する動きが活発化しています。また500社程度が加盟する日本シーサート協議会の活動も広がってきています。当社は、このような動きをさらに加速させて安全なサイバー空間を守ることが、日本社会にとって不可欠であると判断しています。そして、そのためには提携やM&A等も駆使して当たる必要があります。この度の人事によって、これらの目的をより迅速かつ強力に実現していきたいと考えています。

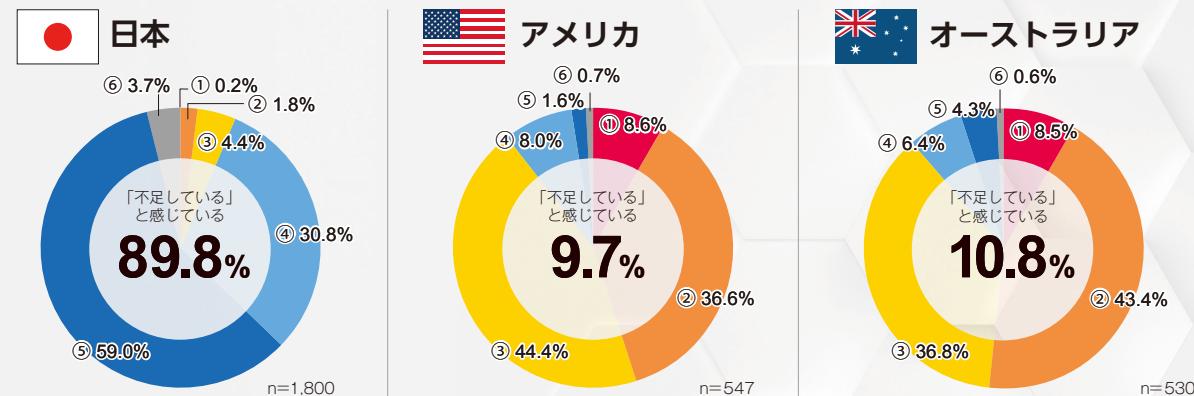
* CSIRT (Computer Security Incident Response Team)
コンピューターやネットワーク上で何らかの問題が起きていないかどうかを監視し、問題が発生した場合に原因解析や影響範囲の調査をおこなう組織の総称

社会貢献としてのセキュリティ人材育成

サイバーセキュリティを学びたい人向けに、日本初の「やられサイト」[BadTodo]を徳丸浩が開発、無償公開しています。意図的に様々な脆弱性を含ませた学習用アプリケーションで、実際にサイバー攻撃をしかけて脆弱性を判断できるため、専門性の高い人材育成に活用できます。

セキュリティ人材の充足状況（国別）

■ ①人材が過剰な状態 ■ ②充足している（最適な状態） ■ ③どちらかといえば充足している
■ ④どちらかといえば不足している ■ ⑤不足している ■ ⑥わからない



出典：NRIセキュアテクノロジーズ「企業における情報セキュリティ実態調査2022」より当社作成

最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社は今「日本を代表するセキュリティブランドを目指す」をテーマに掲げて日々取り組んでおります。実際に日本社会と企業の流れは、インターネットのセキュリティを強化する方向に向かっていきます。当社は、その流れを加速するためにサービスを拡充・拡大し、世の中で必要とされるブランドとしての地歩を固めるために、着実にかつ大胆な提携やM&Aをも駆使しつつ進んでまいります。株主の皆様の一層のご支援をお願いいたします。

代表取締役社長
高谷 康久



会社概要 (2023年3月31日現在)

商号	イー・ガーディアン株式会社 E-Guardian Inc.
代表者名	代表取締役社長 高谷 康久
設立	1998年5月
資本金	36,428万円
従業員数	連結2,547名(うち臨時従業員数2,146名)
本社	〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー8F TEL: 03-6205-8857 FAX: 03-6205-8858
関連会社	<ul style="list-style-type: none">EGセキュアソリューションズ株式会社EGテストングサービス株式会社E-Guardian Philippines Inc.E-Guardian Vietnam Co.,Ltd.イー・ガーディアン東北株式会社

株式情報 (2023年3月31日現在)

株式の状況

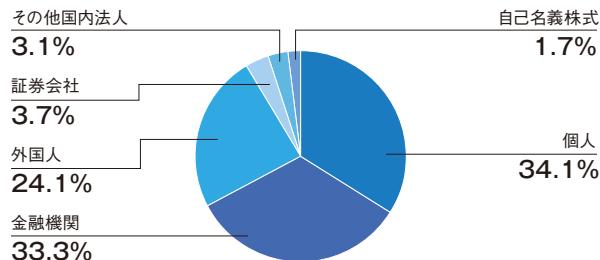
発行可能株式総数	32,400,000株
発行済株式の総数 [うち自己株式180,828株]	10,405,800株
株主数	7,489名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,273,800	22.24
CEP LUX-ORBIS SICAV	920,800	9.01
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	850,880	8.32
高谷 康久	661,904	6.47
GOLDMAN,SACHS & CO.REG	488,456	4.78
株式会社SBI証券	186,994	1.83
CACEIS BANK, LUXEMBOURG BRANCH / UCITS CLIENTS ASSETS	181,000	1.77
野村信託銀行株式会社 (投信口)	175,400	1.72
上田八木短資株式会社	122,500	1.20
溝辺 裕	112,550	1.10

- (注) 1. 当社は、自己株式を180,828株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。また、持株比率は小数点第2位未満を四捨五入して表示しております。
3. 自己株式には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式(191,780株)は含まれておりません。

所有者別株式数の分布状況



株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月に開催
株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告とする。 やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行う。

電子公告掲載URL

<https://kmasterplus.pronexus.co.jp/main/corp/6/0/6050/index.html>



イー・ガーディアン株式会社

<https://www.e-guardian.co.jp/>

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー8F
TEL:03-6205-8857 FAX:03-6205-8858

